

すずき陽悦 後援会 ニュース

発行 すずき陽悦後援会 発行責任者 京野 康則
 連絡先 〒011-0936秋田市將軍野南2丁目3-34
 電話 018-846-9211 FAX 018-846-9212

ホームページ <http://www.suzuki-youetu.jp>

民主・新緑風会入りを決断
 バイオエネルギーの可能性
 わか杉国体に期待膨らむ！
 国会探訪 注目の議員宿舎は

いざ！ 決戦場の臨時国会



民主党・新緑風会入りを決断

参議院選挙での厳しい審判が下されたものの早々の統投表明、それもつかの間、今度は突然の辞意表明をした安倍前総理。長い空白の後新自民党総裁が決まったが、混乱をもたらした責任や政権党としての統治能力を疑わざるを得ません。一方で民主党は政権交代を睨み、第一党となった参議院を主戦場と位置づけ、統一会派を目指し政治決戦を挑もうとしています。私は民主、社民、連合秋田の統一候補として当選させて頂き、この枠組みを大事にして、無所属として活動して来ております。また、院内では、これまで参議院民主党とはほぼ足並みを揃えて活動してきました。こうした政治状況下で9月の臨時国会に臨むにあたり、共闘して与党を追い込んでいける政治状況、何より民意をきっちり反映させるのが国会議員としての使命と考え、無所属の枠を最大限尊重しながら、統一会派の一員として頑張っていくことを決意し、会派入りを決断しました。後援会の皆様には日頃からご指示ご教示を頂いておりますが、こうした政治状況での決断にご理解をいただきますようお願い致します。

経緯について

私は3年前、民主・社民・連合の3者協力で誕生した議員であり、この枠組みを大切にそれぞれの党、団体の活動に参加をさせて頂いておりました。また、本来の参議院のあり方として、党議拘束のない、専門性に富み自由闊達な審議（個人中心の活動による意思形成の重視）、「良識の府」「再考の府」としての機能、参議院の在るべき姿の追求、を基本原則とした有識者などの意見を参考にし、無所属議員として、無所属では何も出来ない・・・では無く、無所属でやれる事」を基本姿勢に活動してきました。また、会派入りについては、適切な時期が到来した段階で判断したいとこれまで話してきており、3者の皆さんとも節目々で相談してまいりました。そして、院内の活動上、民主会派の選択をしたいと昨年1月に社民党連に申し入れ、相談し一定の理解を得ておりました。

小沢代表と連絡を取りながら民主会派入りについて考え、無所属議員連合を模索し主体的に各議員と接触してきました。しかし、立ち上げの本旨は理解できるが、それぞれ複雑な地域事情があると言うことで、ギリギリまで説得したものの、今回はまとまるには至りませんでした。新党日本の田中康夫氏とも相互に連携の道を探りましたが、統一会派への参加形態が異なるとして、それぞれが一人の会という形で民主党との統一会派に合流する事としました。

私は「無所属会」と言う名称で、一人、統一会派に合流する旨を民主党に伝え判断を仰ぎました。その結果、参議院民主党・新緑風会からは合流は歓迎するものの、無所属の一人としては本来新緑風会があり、一人の会として統一会派を組むことは党内の合意を得るには難しいとの返事をいただきました。

その上で、新緑風会に合流してはどうかとの話があり、一晩熟慮と言う短い時間でしたが、自分としても今の政治状況を考え、この機会を捉えて活動を広げて行くべきと判断し、会派届け締め切り直前の9月5日午前に入会届を提出しました。今後国会内では新緑風会の一員として、院外では無所属議員として活動してまいります。

この3年間の活動の積み重ねを基に、さらにステップアップをはかっていくと共に、引き続き、格差の是正、地域の活性化を最大のテーマに頑張ってまいります。

皆さんの声を届けるのが私の仕事です。

秋田を元気にするのが私の目標です。

秋田が良くならなければ日本が良くならない。
 これが私の原点です。

そして、真直ぐブレずに進むのが、政治家の本懐。
 秋田力（パワー）を全国に、
 世界に発信するのも私の大事な任務です。

大いに秋田、元気に秋田、頑張ります。

すずき陽悦

私は3年前、民主・社民・連合の3者協力で誕生した議員であり、この枠組みを大切にそれぞれの党、団体の活動に参加をさせて頂いておりました。また、本来の参議院のあり方として、党議拘束のない、専門性に富み自由闊達な審議（個人中心の活動による意思形成の重視）、「良識の府」「再考の府」としての機能、参議院の在るべき姿の追求、を基本原則とした有識者などの意見を参考にし、無所属議員として、無所属では何も出来ない・・・では無く、無所属でやれる事」を基本姿勢に活動してきました。また、会派入りについては、適切な時期が到来した段階で判断したいとこれまで話してきており、3者の皆さんとも節目々で相談してまいりました。そして、院内の活動上、民主会派の選択をしたいと昨年1月に社民党連に申し入れ、相談し一定の理解を得ておりました。

しかし、今回の参院選でも同じ枠組みの共闘が実現した事から、会派入りは選挙後まで待つていたところです。選挙はご承知の通り自民現職を破る結果をもたらし、私としてもこれまで純粋無所属で果たした役割の一応の成果ではないかと考えています。

参議院選後、第一党となった民主党の小沢代表は衆議院を解散に追い込む強い決意で、野党共闘を模索し統一

会派、あるいは緩やかな連合体構想をもち働きかけていたと聞いておりますが、私も今国会が大事な局面、決戦場を迎えると確信し、

地球温暖化と

エネルギー開発

生産活動優先による自然破壊が問われて半世紀余り、異常気象が世界各地で人々の生活を脅かしている状況に、もはや手をこまねいて見ている訳には行かなくなっています。世界各国が生活の豊かさを追求する一方で、環境破壊の防止、自然環境の保持、保存を強くアピールしています。しかし、必ずしも各国の足並みが揃っておらず、打開策は中々見出せません。さらにエネルギー問題となると、豊かさや背中合わせになつていて問題が複雑です。世界では新しい自然エネルギーに期待が寄せられ、投資や事業が活発に行われていて注目と期待が寄せられています。果たして日本はどうなのか、今回は日本が抱える温暖化対策とエネルギー問題を考えます。

CO₂削減への取り組み

各国のCO₂削減目標を掲げた京都議定書は2006年2月16日に発効しました。日本は2008～2012年に温室効果ガス排出量を1990年比6%削減する義務が課せられました。2005年度の速報値では8.1%増加して6%を加えると、実に14%削減しなくてはならない厳しい状況となつています。実際、産業部門の排出量はほぼ横ばいですが、オフィスビルや商業施設、自動車や船舶、家庭での使用の増加が著しく、積極的な省エネ対策が必要となつています。このため、一昨年の通常国会では省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）を改正し、運輸部門の省エネ対策や住宅・建築物の省エネ対策の強化を進めています。また、京都議定書は、世界最大の排出国アメリカが離脱して、さらに、経済成長の著しい中国・インドなどの発展途上国は排出削減の義務を負いません。議定書は発効したものの、こうした問題点を抱えています。そして、最近では京都

以後（ポスト京都）に当たる2013年以降の対策が注目されています。様々な観測記事が憶測を呼んでいます。その内アメリカは、独自の温室効果ガス削減目標を各国が明らかにし進捗状況をチェックする、新たな枠組みを今月下旬の主要排出国会議（ポスト京都の合意形成に向けた会議）



に提案するものと見られ、ここに来て動きが出てきました。

CO₂削減は、アメリカや途上国も含めた全ての国の参加と協力が不可欠で、京都議定書の成果や反省を踏まえた2013年以降については「空白が生じない様に早い段階に検討する」事になっていきます。

ちなみに2003年の各国のCO₂排出量は、アメリカがトップで22.8%、中国16.4%、ロシア6.3%、日本4.9%、インド4.3%などとなっています。

ところで、議定書とは別に世界の半分を占めるアメリカ・中国・インド・韓国・日本・オーストラリアの6カ国が共同で温暖化に取り組む「アジア太平洋パートナーシップ」の創設が発表されています。環境汚染・エネルギー安全保障・省エネや再生可能エネルギーの技術協力など、京都議定書の補完的な位置づけとなつていきます。去年1月の第一回閣僚会合では枠組みの正式な立ち上げと、作業計画で合意を見ました。日本としては「環境と経済の両立」「技術革新の推進」「情報の共有」「評価・見直しプロセスの重視」などを課題としています。

安倍前総理は5月24日の第十三回国際交流会議「アジアの未来」で、世界全体のガス排出量を2050年までに半減させる・・・との長期目標を表明しました。国内では「一人一日一キロ」削減に向けた国民運動を展開したいとも言及しました。日本は省エネ技術にかけては



先進的な立場にあります。その技術を世界に提案する一方で、如何に効率良く、ガス排出を抑えエネルギーに転換出来るか、課題解決に向けた研究開発が待たれています。

世界が注目の新エネルギー

CO₂削減と共にわかに脚光を浴びてきたのが「新エネルギー」という、いわば自然を利用したエネルギーです。石油代替エネルギー、再生可能エネルギーとして、地球温暖化や原油高騰に伴い、世界中が導入目標を大幅に増やし、環境への配慮をアピールしています。EUは2020年に現在の3倍以上に、あの石油政權といわれているプッシュアメリカ大統領も脱石油とバイオエタノールへの大規模な転換を主張しました。こうした動きは自然エネルギーに関連した環境ベンチャーへの投資額にも現れており、勢いは増しています。

我が国では、「新エネルギーは経済性などで十分普及できていないが石油代替のエネルギーとして導入すべきもの」と定義し、次のような種類を指定しています。太陽光、風力、雪氷、廃棄物、天然ガス利用、燃料電池、バイオマスなど14種で、これまでも太陽光や風力は一般的に利用されていますが、安定性や経済性などで、化石エネルギーに取って代わるまでには至っていません。いかに新エネルギーを代替エネルギーに

するのかが、技術開発の他、安定性や雇用創出に継いでいくかなど課題は数多く残されています。

主な種類ごとの状況を見てみますと、まず、風力発電は、秋田でも風車を多く見かけますが、日本では北海道や青森、秋田などで多く行われています。しかし、トータルではドイツが世界全体の3割ほどを占めていて、スペイン、アメリカ、インドと続き、日本は2%ほどで13番目となっています。太陽光発電は唯一日本がリードしてきた分野ですが、近年ドイツに抜かれその差が開く一方です。これに伴い日本の製造メーカーの市場シェア（25%）も脅かされています。近年注目されているバイオエネルギーは世界市場で急拡大しています。しかし、食料や家畜飼料の高騰などバランスが崩れたり、途上国の開発問題を引き起こす懸念もあり、国際協力を進める動きが出ています。

総じて世界の主要国が新エネルギーの推進に積極的で、その魅力に市場を含め活発に動き出している状況ですが、日本の出遅れては否めず、対応が急がれています。



少年時代から空想科学小説やSF映画が大好きで、人類の明るい未来を夢見たり、未知の世界に探究心を燃やしてきました。しかし、この世界も時代時代によって背景が変わり、昔の様な「めでたしめでたし」のエピローグが、今では暗くお先真っ暗の未来を暗示する作品が主流になっています。それでは、私たちの未来に希望は無いのか？現状の世界情勢が続けば恐らく希望は無くなります。その最も大きな要因は「地球温暖化」です。CO₂を早急に削減しなければ、地球規模の危機がやって来る！と以前から警鐘は鳴らされてきましたが、環境よりも経済発展が優先され、気がついた時には深刻な状況に追い込まれていました。「なあに、自分が生きているうちは大丈夫」と高を括っていた人も多いと思いますが、状況はそれほど生やさしいものでは無さそうです。元アメリカ副大統領アル・ゴア氏は、今年1月に公開された映画「不都合な真実」の中で地球変化の危機を訴えたほか、地球温暖化研究の第一人者NASAゴッダード研究所のハンセン博士も去年開かれた地球温暖化調査会議で「地球の破局を回避する時間は、あと10年しか残されていない」と主張しています。「自分が生きているうち・・・」に、危機はやって来るかも知れないのです。しかし、地球規模で俯瞰すると、科学やこの方面に精通する人たち以外は必ずしも切実に捉えていないのが現状かも知れません。マーク・トゥエインの警句「災



いを引き起こすのは、《知らないこと》ではない。《知らないのを知っていると思ひこんでいること》である」が、よく表しています。かつては自然が豊かで、人間の及ぼす影響は少なかったのですが、文化の加速度的進展は人間優先で次々に環境の改革を行い、その結果、極薄の「大気」にまでダメージを与える結果になりました。あと10年、皆さんは何歳になっていますか？今、世界中がこの問題に真正面から取り組まなくては、「後世」が危ういのです。



い引き起こすのは、《知らないこと》ではない。《知らないのを知っていると思ひこんでいること》である」が、よく表しています。かつては自然が豊かで、人間の及ぼす影響は少なかったのですが、文化の加速度的進展は人間優先で次々に環境の改革を行い、その結果、極薄の「大気」にまでダメージを与える結果になりました。あと10年、皆さんは何歳になっていますか？今、世界中がこの問題に真正面から取り組まなくては、「後世」が危ういのです。

すずき陽悦

バイオマスエネルギーとは

新エネルギーの主要な部門で生物利用からつけられた名称です。現在は主に廃棄物系と植物系に分けられており、廃棄物系としては産業廃棄物、農林水産業からの廃棄物、生活から出される一般廃棄物をそれぞれ燃焼させ、熱や電力を利用して使います。また、植物系ではサトウキビ、ナタネ、米などを燃料用アルコールに転換する利用方法ですが、現在のところ広く実用化には至っておらず、低コスト化など技術開発段階にあります。



バイオマスエネルギーの導入はなによりも、廃棄物処理と燃料コストの削減、燃焼によりCO₂を発生させるが、植物が光合成によりCO₂を吸収することからCO₂を相殺し、温暖化防止につながるメリットがあるとして、(カーボンニュートラル)国をあげて利用促進が叫ばれています。しかし世界的にはまだまだ導入状況は低いようです。主要国のエネルギー供給に占める比率では、日本が2%余りに対し、アメリカは20%近く、EU全体でも15%余りとなっています。

主なバイオマスエネルギーをみてみます。木質燃料は建築廃材や間伐材などを燃料に使用したり、蒸気発電利用をしていて岡山県や福島県の企業などが導入しています。生ごみなどからメタンガス、バイオガス発電しているのは全国の食品会社などで多く利用されています。

バイオ燃料はバイオエタノールとバイオディーゼル油(BDF)があり、バイオエタノールはサトウキビ、トウモロコシ、木質バイオマスなどを発酵させてアルコールをつくり、ガソリンと混合させて使うものです。E3、E5などと呼ばれ、ガソ



リンにバイオエタノールをそれぞれ3%、5%混ぜて使います。今年東京都内の一部のガソリンスタンドにお目見えしました。また、バイオディーゼルは食品工場や家庭からの廃油や、ヒマワリ・菜の花の油を精製し、軽油に5%混ぜて使用しています。菜の花プロジェクトの取り組みもこれに当たります。

今、全世界がバイオマスを利用した持続可能な資源循環利用型の社会実現に向けて行動を起こしています。日本でも平成17年に「バイオマスタウン構想」が示され取り組んでいます。秋田県でも地域のバイオマスを活用したエネルギー開発に取り組んでいるグループがあり、こうした取り組みが、バイオマス先進県への期待となっています。

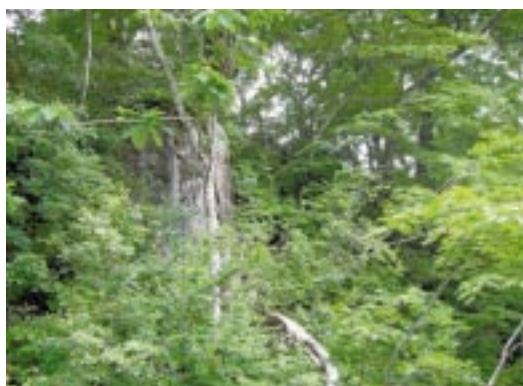
秋田はバイオの宝庫



食料自給率はカロリーベースで40%、エネルギー自給率は更にグンと低くて4%しか無い日本で、果たしてバイオ・エタノールは生産出来るのでしょうか？実は現在沖縄の宮古島でサトウキビを原料とするバイオ・エタノール研究が進められている他(北海道十勝など全国6地域)、今年1月大阪府堺市の大阪エコタウンに、「バイオ・エタノール・ジャパン・関西」の廃木材用製造施設が完成し、稼働しました。そしてJA全農は、新潟県のJAにいがた南蒲管内で、コメを原料とするバイオ燃料製造施設の建設計画を今年早々に明らかにしました。作付けするコメは、多収穫米で今年から50ヘクタールで作付けを始める計画です。お隣の岩手県からもコメのバイオ利用のニュースが報じられていて、ここに来て日本独特のコメ文化が、エネルギーのホープとして注目を浴びていますが、実際にはかなりのハードルが待ち構えています。国内の農業政策や法整備、税制の問題、単価がどうなるのか、などなど。ただ、休耕地や耕作放棄地の活用や、地産地消型のエネルギーとしては有効な手立てと言えるのではないのでしょうか。

安倍前総理が去年11月に、「バイオ・エタノールを将来ガソリン燃料の10%に当たる60万キロリットルに！」と指示した事が石油業界等の反発を招いていますが、CO₂削減に向けて様々な燃料形態の組み合わせ

わせも考えられていますので、狂想曲にならない様な慎重な対応が必要と思えます。いずれにせよ、米産県「秋田」にとつての得意分野は、何と云っても「コメ」ですので、「緑の水田を緑の油田」へと転換を図るチャンスではあります。



大仙市の東北

農業研究センターではバイオエタノールの原料として飼料米を開発しました。10aあたり8百kgと原料としては申し分ないものと見られています。海外との価格競争にはまだまだ太刀打ちできない状況で、現在は生産コストの削減、精製コストの削減が課題となっています。更に秋田は林業県でもありますので、木材からのエタノール製造が確立されれば原材料の宝庫にもなり得ます。間伐材、コメ、稲ワラ、葦や萱などセルロース系が日本では有望と見られているだけに、そうであれば秋田はバイオの宝庫としてエタノールの生産に現実味を帯びてきます。

木質バイオ技術開発を支援

経済産業省は産学官が連携した技術開発を支援する事業として秋田県の「木質バイオマスからのバイオエタノール生産技術の開発」を選び、本格的な共同開発が進められる事になりました。

共同開発は大手製粉メーカーと京都大学、それに県内のプラント製造、製材企業、ガソリンスタンド事業者などが参加して行われるもので、研究資金は1億5000万円を平成22年を目途に開発が進められる事になっています。そして、プラントに適した木材の加工技術の開発や、バイオエタノールの製造、県内のガソリンスタンドでの販売にいたるまでのビジネスモデルプランを構築することになっています。

木質の分解は製粉メーカーと大学の共同研究で既に確立されており、この共同開発では、いかにコストを低く抑え実用化できるかなどを研究していく事にしています。今回の共同開発に携わる製粉メーカーの責任者にバイオエタノールの将来性や秋田の可能性などを伺いました。

バイオエネルギーと秋田の未来を探る

日清製粉 長谷川清氏に聞く

長谷川 清 (昭和38年) 埼玉県出身、東京駒込高校から日本大学農獣医学部に入学。昭和61年卒業、日清製粉に入社。現在は営業本部のエコチームに所属。秋田産業サポータークラブメンバーとしてバイオエネルギー開発に活躍中。趣味が仕事と言うほど熱血漢。去年亜細亜大学大学院を卒業し、経営管理学をマスターした。「秋田は第二のふるさと」と自慢する程の秋田大好き人間。



鈴木 — この間、経済産業省の担当者が来たときバイオエタノールのことを話したのですが、教わった通り「C5、C6の区分はどうなのか」という話になったら「なんでもこいつ知ってるんだ」という感じで、急に親しみがわいたようでした。ただ、最近風向きが良くないですね。

長谷川 — エタノールが食糧由来と言うことがひとつ、それから石油を消費して、地球の反対側から持ってくるというところ。さらに、バイオディーゼルの発ガン性の問題などがあります。あと、石油業界が割れているという背景もあります。そういうことをきちんと説明せずに議論するから誤解を生むのでPRというか、教育というか、将来的な絵を書いて見せないと。あとバイオエタノールが穀物から作られることで、穀物価格の上昇を招いているとの批判も受けている。ただ、この問題はバイオエタノールと言うよりも、穀物メジャーに問題があるんです。そこがすっ飛んでいる。間違ったイメージでバイオエタノールはだめだと言うのは大きな間違いですよ。



鈴木 — 木質バイオに入りましょか。何年ぐらい前に始めたんですか。

木製バイオの可能性は

長谷川 — 5年ぐらい前ですね。最初は島根です。

そこである程度目途がたつたんですが、人事代えて「北海道、東北をやれ」と言われた。ただ知り合いがいなくて。(笑い) 民間の担当者で実地調査したのがスタートでした。

鈴木 — そのときのバイオは何を取り組もうと考えたのですか？

長谷川 — 有機物の再資源化です。そして、東北の不法投棄の6割くらいは廃材だということ

鈴木 — 廃材？

長谷川 — 廃材は原料物だから「まあいいかな」と無視してきている。だいぶ事情が変わってきているけど。大阪で伐根を捨てた業者が逮捕されているしね。話は変わるけど、秋田県内の技術の調査をしう

と言つことになって、県のエネルギー担当の人と実地調査をやつたんです。そして秋田県内に技術はあるけど、木質バイオには二つのネックがあるんです。その一つは木の硬い組織を壊すため沸煮する方法ですが、硫酸を使うため公害発生の恐れがあるんです。さらに粉々に砕く方法もあるのですが、そのためにものすごいエネルギーを使うという課題があります。

しかし、様々な研究開発が進められた結果、私の知り合いが画期的な酵素を開発していました。それを是非秋田でやろうと言つ事になりました。通常木の組織を破壊するには腐朽菌をまがし酵素分解をおよそ3週間待つものですが、画期的な酵素は1分でもできるという可能性をもっています。要は多くの木質エタノールを取り出すのはどうしたらよいかと言つ事でコストはかかり増しになって、ガソリンに置き換えられる事が大切な事です。木はやるべきと思う。秋田は木



鈴木 — 休耕田が沢山ありますからね。



長谷川 — あとね、今考えているのが、スイッチグラスという植物。成長がい

鈴木 — イネ科のやつで、アフリカの草に似ているのかな。あのね、大森山動物園で象の飼料にするために、毎年何アールか植えているはずだよ。それも3メートル位になるはずだよ。

長谷川 — うーん。同じかもしれないね。

鈴木 — トウモロコシの葉っぱみたいで結構成長率高いし。ただ、何とかグラス、別の名前だと思つけど。今聞いた話と同じような感じの草ですよ。

長谷川 — 栽培コストなんか見ても、とりあえず蒔いてみたいね。

鈴木 — 虫も付かないし、ほつといてもいい。

長谷川 — それいけるんだつたら、知り合いの農家探してやつてもらおうか？木質は、硬い木ができれば、柔らかい木はすぐ出来る。

鈴木 — あと、水溶ができれば何でも応用が出来る。

長谷川 — たまたまテレビを見ていたら「家庭から油田」というのをやっていた。ポリ容器

鈴木 — や発砲スチロールから石油になる。スト

長谷川 — ンプ灯油の値段の高い機械を使うとガソ

鈴木 — リン抽出できるつて。

長谷川 — ヘーッ？

鈴木 — 現に環境省が取り組んでいるらしい。た

長谷川 — だ、値段が高いので普及までには時間がか

鈴木 — かるみたい。発砲スチロールの裏にマ

長谷川 — イクがついているらしいけど、完全にリ

鈴木 — サイクルで石油もガソリンも抽出できる

長谷川 — 技術というか、機械はあるんですよ。

鈴木 — 多分、溶剤の費用とか、触媒の減価償却

長谷川 — とか考えると産業的には、今は無理でも

鈴木 — 将来は開発可能に。

長谷川 — バイオエタノールも、CO₂はブラマイ

鈴木 — ゼロなんだが、それを作るためにどれだ

長谷川 — けの電気を使うか。結構意地悪な批判が

ありますね。

長谷川 — 要は効率の問題で、投入エネルギー量と

鈴木 — 出てくるエネルギー量の問題なので今は

長谷川 — まだベンチスケールなんで、スケールア

鈴木 — ュップしないと本当のところはわからない。

長谷川 — そして、エタノールというのはエネ

鈴木 — ルギー源なので、そのエネルギー量をど

長谷川 — れぐらい取り出せるかが最大の課題で

鈴木 — す。ただ、ガソリンを使わないから、赤

長谷川 — 字なんだけど赤字でもいいという考えも

鈴木 — あるわけですよ。投入するエネルギー全部

長谷川 — がエタノールなら。また、例えば1リッ

鈴木 — トルのエタノールを作るのに50円の赤字

長谷川 — になる。でも原料の廃材の処理費で100円

鈴木 — の収入があればいいとの考えもある。

長谷川 — その通りですよ。国家エネルギー戦略

鈴木 — は原子力だけど、再生可能というのが、

長谷川 — 地産地消をどんどん進めなければなら

鈴木 — ないし、その独自性を持つていくのが大事

長谷川 — です。よ。

鈴木 — 地産地消型でいうと、ほとんどの方がや

長谷川 — っているのが酸分解方式で、これだと設

鈴木 — 備が大きくないとけない。廃棄物部分

長谷川 — のコストを考えると、マスにしないとい

鈴木 — けない。そうすると広い場所が必要にな

長谷川 — る。地産地消型は小さなネタ地を山の中

鈴木 — に作つて、そこにいるんな人に仕事をし

長谷川 — てもらつ。お爺ちゃんやお婆ちゃんに、

鈴木 — 農業、農村をもつと大事にしなければと

長谷川 — 考えます。

鈴木 — 限界集落という言葉があるけれど、かな

長谷川 — り深刻です。農山村地域は、今の農政は

鈴木 — 逆ですよ。日本の米文化を守らなくてど

長谷川 — うしますか。

鈴木 — 中山間部の過疎の激しい地域の爺ちゃん

長谷川 — 婆ちゃんが水を守り、きれいな空気を作

鈴木 — つているんですよ。

長谷川 — 秋田のこれから、新しく切り開く道は何

鈴木 — ですか。確かに

長谷川 — に多収米米に

鈴木 — によるエタノ

長谷川 — ルへの転換は

鈴木 — 簡単だとの話

長谷川 — は頂きました

鈴木 — が、それを確

長谷川 — 立するために、

鈴木 — 何をすればいい

長谷川 — のか。秋田

鈴木 — を回つて、人

長谷川 — の繋がりに秋

田は魅力があるでしょう。

長谷川 — エネルギー関係でやるなら、秋田はやは

鈴木 — り木でしょう。米もあるけれど。要はこ

長谷川 — れからのことを考えると、潜在的なものを

鈴木 — を秋田は持っていると思う。その意味で

長谷川 — も秋田モデルと思っています。だから、

鈴木 — モデルを着実なものにしたいですね。も

長谷川 — のすごく私が注目しているのが食品で、

鈴木 — 地産地消、それから安全、安心。そつ

長谷川 — うものすべてが秋田にはあると思つし、

鈴木 — 秋田の食糧は豊かですよ。流通を知つて

長谷川 — 売れるもの、商品を作れば良い。

鈴木 — そのへんが秋田はまだ弱いですね。食材

長谷川 — としては全国的に認知度が高いのに。

鈴木 — あと、発酵の技術はバイオマスの時代に

長谷川 — なれば、ものすごく反映されます。発酵

鈴木 — 技術からバイオマスへの変換技術を産業

長谷川 — 化する可能性なんか、良いのではないで

鈴木 — しょうか。

長谷川 — 鈴木 — 農業、林業、そして発酵を生かした食品

長谷川 — 産業。これと先端

鈴木 — 技術のバイオが結

長谷川 — 合する。その中で

鈴木 — 秋田の可能性を探

長谷川 — つていく。大変夢

鈴木 — のある話でした。

長谷川 — 夢を実現させるた

鈴木 — め、議員の立場で

長谷川 — 一歩でも二歩でも

鈴木 — 前に進めたいと思

長谷川 — います。本日はあ

鈴木 — りがとつございま

長谷川 — した。

用語説明

C6...糖分で、代表的なものにグルコースがある。

C5...日本酒の原料となる米澱粉は、糖化すると

C5...すべてグルコースになり、酵母により簡単

C5...にエタノールに変換することがでる。

C5...同じく、代表的なものにキシロースがある。

C5...木や稲わらには、C5が多いため、これを

C5...如何に効率よくエタノールに変換するかが

C5...課題である。

カロリーベース

食糧自給率を示すものとして生産品のエネ

カロリー単位で表示するもの。野菜などは低

カロリーなので、正確さに欠けるとも指摘

されている。



総合評価方式の導入を

経済産業委員会での質疑が40回を越えている。すき議員は当該省庁を始め、真剣に審議した中で、要請事項が着実に現実化されています。特に省庁の計画策定担当者を事前に要請しての勉強会を単独に開いて認識を深め、自らの最大命題である、地方活性化（救済ではない）にいかに関与させるか、省庁の担当者も真剣に考えてもらっています。人的な繋がりも増えてきていますが、何よりも秋田を発信したいすき議員の思い入れが強く、省庁担当者も積極的に協力を申し出てきています。今年の通常国会での審議で、実現した事項を次に紹介します。



官製談合防止強化の方策に一般競争入札の一層の拡大があるわけですが、これが安からう悪からうにつながるって地域の中小企業者の機械的な排除につながるかねないと言っているわけもあるわけですね。

（中略）総合評価方式の導入や、公共工事の品質確保促進法などが適切に運用されるため、総務省、国土交通省、都道府県などの助言、周知徹底、連携を強めて頂きたい。

森雅夫国土交通大臣官房審議官
ご指摘のように、総合評価方式は、価格に加え、価格以外の要素も総合的に評価して落札者を決定する方式で、発注者が主体的に判断する機会が増加すると考えられます。したがって、国民の疑惑を招くことのないよう、評価にあたってはその中立性、公平性を確保することが非常に重要であると考えており、一層の透明性、客観性の確保などに努めていく必要があると考えております。

大森審議官は「自治体の発注するWTOの対象案件（24億1000万円以上）以外の自治体の工事は原則として地元企業に発注する」とことなどを柱に、公共事業入札に「すみ分け」という新しい規制を加える大胆な考えを提唱。
すき議員の質問の後、今年1月に当初私案として発表後審議を経て政策化した。

地方税減免分の補填を

企業立地促進法案審議ですき議員は、企業立地の際地方税の減免は地方自治体を苦しむ立場に追い込むとして、地方交付税の補填を促しました。これに対して経済産業省は財政力の弱い自治体が憂いなきよう取り組む決意だと答え、地方都市の財政力格差を考慮する事を約束しました。

疲弊している地域にもっと重点的に施策を講ずるべきだと言った意見に私も同感だ。地域に厚くと言った部分にどのように対応するか？
福永健文地域経済産業審議官

ご指摘の通り地域の特性を生かした企業立地を促進するのが今回の法案で、立地の際には、特に景況の厳しい地域をしっかりと支援していきたいと考えています。施設整備の支援も地域の有効求人倍率などを考慮して予算の採決を行っていきたい。地方税を減免した際、当該の自治体相当分を地方交付税で補填すると言った事についても、財政力指数の低い地域を考慮する。厚生労働省との連携で雇用情勢の厳しい地域配慮するよう話しています。

激減する中小対策は



すき議員
中小企業こそが地域と日本の強みですけれども、グローバル化の進展、少子高齢化など、取り巻く環境が大きく変化する中で、政府の支援策というのは、格差の解消につながるのか？

甘利経済産業大臣

いわゆる中小企業の不利な点の是正というのは金融政策でも連綿と続いているわけであり、不動産担保や個人保証に過度に依存しない融資制度とか、無担保無保証の枠の拡大とか、そういう従来セーフティネットとして担ってきたものはしっかりと残っている一方で、新事業への挑戦、創業の促進といったパイを大きくする仕組みを積極的に取り組みます。これは大と中小企業との間の格差を、再挑戦して是正を図れるようなそういうチャンスを生み出す自主的な策を提案します。

大成功！冬の国体



第62回国民大会が間もなく開催されますが、それを前に冬の大会が2月、田沢湖高原などを会場に開かれました。すき議員も大会関係者として開会式に参列し、各県選手団の入場に大きな拍手を送りました。当日は風もなく絶好のコンディションの下、秋篠宮様をお迎えして盛大に行われました。真つ白な会場にカラフルなユニフォームの選手団が次々に入場し、地元の子ども達が大勢詰め掛けるスタンドに向かい親しげにパフォームを繰り返して行きました。3日間の熱い戦いが繰り広げられ、県選手団は見事総合3位となり、9月の本大会に弾みをつけました。やったね！

県選手団とスギッチと記念写真！



四者協力候補が当選

先の参議院選挙ですき議員ら四者が推薦し協力態勢をしいた新人の松浦ダイゴ氏が自民党現職を破り初当選しました。選対本部長を務め選挙戦の先頭になって奮闘してきたすき議員も真っ黒に日焼けし、投票日にはTV局の応対や喜びの支持者と握手を繰り返しました。



TV局の生中継に出演！かつてはマイクを持っていましたが！

地域ブランド次々認定



3月地域ブランド県内第一号に「秋田由利牛」の認定が決まりました。所管ですのいでいち早く県内の関係者に連絡しましたが、これをいかに生かしていくかが直接地域活性化につながりますので、今後の活用を期待を寄せています。この後に比内地鶏や秋田もろこしなど次々と認定されました。この他県内では白神ネギなど4品目が認定を待っています。

参議院を考える勉強会



第二回「参議院の在り方と未来を考える勉強会」が開かれ元参議院議長長の斉藤十郎さんを講師に迎え貴重な提言を拝聴しました。「良識の府」「再考の府」を自他共に確立するために、今こそ超党派で改革を進めて行かなければと意を強くしていました。政党より個人活動を中心とした意思形成、現行法の枠組みにとらわれない参議院の姿を追求するなど課題は多いがどうかしなければなりません。

柏崎刈羽原発を視察



7月地震の被害を受けた新潟県の柏崎刈羽原発を単独で視察しました。倒壊家屋をめぐって現場に到着し、3号建屋の外側からはそれ程のいたみは確認できませんでしたが、最初に火災が発生した変圧器や激しい地盤沈下のつめ果にはいたらなかつたのが奇跡的とさえ感じました。想定外では済まされませんが、より厳しい安全基準が必要ではないでしょうか。

陽悦紀行

1月



今年も新年会など目白押しで年明けを迎えました。皆さんの元気な姿にふれ、今年も頑張ろうと元気が湧いてきます。忙しかなりそうです。

現行のコメ検査制度は玄米の外観重視で、農薬の使用が促されているとして、検査制度の見直しを求め大潟村の農家と東京の消費者団体が農林水産省に要請しました。唯一出席した現職議員のすずき議員も要請活動を側面から応援しました。

県議会議員選挙の投票率が4月行われ、すずき議員も連合議員懇の一人として仲間の応援などに駆けつけました。秋田市選挙区では、4候補全員の当選が決まりましたが、他地区ではやや残念な結果に、捲土重来を！



清水谷宿舎の立替工事が、わかにかに注目を集めてフジTVの取材を受けました。久々にマイクをつけました。



すずき議員も 元気いっぱい



今年のポスター 入選者とスナッフ



大館市出身のヴォーカリスト・佐藤真理子さんのライブステージが1月東京で開かれ、秋田首頭のロック・ヴァージョンで全国的なヒットを飛ばした佐藤さん、現在はNHK時代からの仲間「佳代」さんとコンビを組んで、東京は勿論、フランス公演などに飛び回っています。ま、兎に角パワフルそのもので、爆発のステージでした感激！

スプリングパーティー

2回目のスプリングパーティーを2月に開催、大勢の皆さんに出席を頂きました。折り返しを迎えての決意を述べました。

2月



工藤連合秋田会長の挨拶で開会



西村副知事の挨拶



柴田夫妻の乾杯発声



お世話になっている女性陣と



2月経済産業委員会が新潟県見附市のニット工場を見学しました。歴史と伝統を誇ってきた繊維産業ですが、衣料品の分野を中心に国内需要の低迷と中国等からの低価格輸入品の増加で苦戦を強いられているのが現状です。厳しい実情にありながらも、視察した工場は工夫とオリジナリティを駆使していますが、急速な時代の変化に対処するためには、やはり「公」の役割が重要です。今後委員会の中で議論して行かなくてはなりません。

3・4月

3月、中国全国人民代表大会代表団と、外交防衛・農林水産・経済産業・環境の4委員会合同懇談会に出席、エネルギー産業などについて意見交換しました。



経済大綱関連3法案に関する事前勉強会。すずき事務所恒例となっていますが、いよいよ本格論戦に向けて臨戦態勢です。



人気は 焼きそばコーナー

メーデー



ご挨拶の パフォーマンス



働くものの祭典をアピール



5月



5月、経済産業委員会は北海道の元気企業を視察、製材、冷凍食品、ワイン工場など地元にとどわりの企業を拝見し感動しました。



ノーベル平和賞受賞のワナガリ・マータイさんを迎えて秋田市下浜で行われた記念植樹に参加



中国山西省から「石炭運輸・販売集团有限公司」の一行26人を迎え研修・交流会を行いました。1時間半にわたり、日本の輸送体系などについて質疑が交わされました。また、「在庫ゼロ」の管理体制について多くの質問が寄せられるなど、熱の入った交流となりました。



参議院60周年記念祝賀会が開かれ、扇千景議長が「参議院は良識の府であり熟慮の府。60周年を契機に参議院の本来の在り方について考えて行かなくてはならない」と挨拶しました。カーボンコピーと揶揄される事無く、独自性を発揮して欲しいとの願いが込められていると感じました。

6月



恒例の秋田市ヤートセ祭りが今年も開かれパワー全快の踊りを披露



5月県植樹祭が田沢湖高原で開かれ、緑の大切さをアピールしました。来年は全国だ！



すずき陽悦と語る女性の会準備会を秋田市で開催しました。当日はおよそ60人が駆けつけていただき、フラワーショーも行われ和やかに交流しました。本番はこの秋に予定しております。多くの参加をお待ちいたしております。



陽悦紀行

7・8月



柏崎刈羽原発の視察と地域の実情を見て来ました。倒壊した家屋が次々に眼前に現れ、震度6強の恐ろしさを思い知らされました。路面の陥没や亀裂は至る所に見られ、復旧作業が急ピッチで進められてはいるものの、まだまだ相当の時間を要するのが実情です。如何に激しい振動が襲ったのかが伺い知れます。

アジア・アフリカに支援米を送っているグループによる田植えが大館市で行われ参加しました。久振りの手植えに腰が、腰が・・・収穫が楽しみです！本当に



暑気払いを兼ねた石田県議のビアパーティが開かれ、多くの市民が大交流会を楽しみました。



琴丘能代道路の二ツ井ICまでが開通、県北部とのアクセスが年々便利に！



湯沢横手道路も雄勝こまちICまでが開通県南のアクセスも飛躍的に便利になりました



大漁だー
何故か力が入る地引網、今年はカモメが待ち構えるほどの大漁だー

国会探訪



今話題の議員宿舎とは？

東京での活動拠点は国会であり議員会館ですが、生活拠点は千代田区紀尾井町の参議院清水谷宿舎です。



議員宿舎と言えは衆議院の赤坂新宿舎を巡り、「豪華すぎる!」「入居費が民間とかけ離れている!」などと非難され、入居をためらう議員が続出しました。その議員宿舎、今度は先が参議院の清水谷宿舎に向け

られています。「建設後40年が経過し老朽化が進んでいるため、建て替える・・・平成21年6月の完成を目指す」と言うもので、紀尾井町まちづくり協議会からの移転要望などの動きは平成15年から平成16年2月にかけて行われ、16年3月からボーリング調査が行われました。つまり、私の当選以前に話は進んでいたのです。これまで新しい宿舎については何ら説明を受けていませんでしたので、取材を契機に国会事務局から事業概要を取り寄せた始末。衆議院とは一桁違いの38億円の総工費で、地上16階地下2階、1戸当たり79平方メートルの世帯用が80戸で、今暮らしている様な単身用ワンルームはありませぬ。基礎工事に向けての準備が既に始まっていて、夏に本格化の予定でしたが反対運動などが持ち上がりどうも順調とはいえないようです。



前置きが長くなりましたが、今回は私の暮らしぶりを写真で見てもらおうと言う特集ですので、本題に入ります。宿舎は世帯用のA棟と単身のB棟に分かれていて、単身用は7畳のワンルームで、居間兼食堂兼寝床すべてこの部屋です。これに流しとシャワー室が備えられています。共同施設では共同浴場と食堂が2階に、洗濯機も共同使用が1階に2台。家賃は光熱費などを含めて2〜3万円まで活動期によって変動があります。(安いのは助かります)部屋での生活は、快適で、コンパクトで使いやすいと思います。私は現状に満足しています。ただ、コンビニは沢山あるものの、近くにスーパーが無いのが自炊派としては辛いところ。買い物袋をぶら下げて四谷や半蔵門方面に遠征しなければなりません。ま、最近「東京生協」の宅配を紹介されたので、重いものについては心配が無くなりました。自分の胃袋は自分で守る!が心情ですが、一人暮らしはどうしても「残す」よりも「食べてしまおう!」となるため、体重はなかなか減少しません。「さて、今夜は何にしようかな?」宿舎に帰りホッとする楽しみなひと時です。ところで議員宿舎は・・・必要です。特に首都圏の不動産事情に疎い、地方出身の議員には無くてはならないものです。私の場合には無所属です。で、当選時に抽選でようやく大事なワンルーム。本音は「現状のまま」なんです。



衆議院のカーボンコピーと揶揄される参議院のあり方を考える機会が多い。この参議院改革を考える場合の手掛かりに、元参議院議長の斉藤十郎氏の私的諮問機関がまとめた「参議院の将来に関する意見書」がよく引き合いに出される。意見書では、解散がなく、長い任期の特長を生かした参議院の独自性、自主性に重点を置いて、衆議院の「権力の府」に対し「良識、再考の府」と位置付けていて、改革の原則的な考えと言われ評価は高い。

具体的には参議院会派への立脚、党議拘束や国政調査権の行使方法の見直し、議員立法の発議要件の緩和、議員スタッフの充実、そして国務大臣就任自粛や通年会期制の導入などをあげている。どれも最も改革と言われているが、中々実行には移せていない。



参議院のあり方

参議院のあり方と未来を考える勉強会」の2回目の勉強会が1月開かれ、斉藤十郎さんを講師に迎えて話しを伺ったところ、この意見書は再議決要件の緩和など衆議院の優越性を強化するものだと、当時の与野党の反応はいづれも冷たいものだった

という。完璧にはないにしろ、特定分野に優先的な審議を認めるなど、独自性を重視した初の抜本的な改革案だと思っただが、政党や政治家の利益を優先したとは考えたくない。何れ二院制の存在意義を問い直すことを含めて、参議院改革が必要なのは間違いないようだ。

そうした中で、参議院の逆転はこの後どのような展開が予想されるか、早速テロ特措法をめくり与野党の攻防が繰り広げられており、与野党は参議院での否決を予想し、修正案作りを模索しているようだ。少なくとも、これまでのように対案や修正案が見向きもされないような状況ではなくなった。修正案と与野党が話し合い、数多くの議員立法が提出されることで、より詳しい審議内容が国民に伝わってくる。

今回の選挙で、衆議院と参議院の与野党勢力が異なる結果となった。法案の可否をめぐって様々な思惑が飛び交って、まさに「政局の府」になってしまった感も受けるが、与野党の妥協点を探る努力が一層重要になったことと、参議院改革に近づくチャンスのような気がする。

(Y・K)

後援会より すすき陽悦

県議・市議・参議と連続して選挙が行われ、後援会報の発行が大幅に遅れてしまいました。深くお詫言ひ申し上げます。特別号を何度か刊行しましたが、全ての皆様へはお送り出来ませんでしたので今回、同送させていただきます。なにとぞ事情をお汲み取りの上、お許しください。発行責任者

55年に保守系二大政党「自由党」と「民主党(当時)」が合同して自由民主党が発足、それより前に左右社会党の合同で発足した社会党と、いわゆる自社体制となり、政権を争うと言われた「55年体制」ができました。しかし、55年体制は結局政権交代のない日本の政治体制に終始しました。今年は12年に一度といわれる統一地方選挙と参議院選挙が行われた選挙の年でした。民意は圧倒的に安倍政権打倒と民主党政権への期待でした。今こそ自民党の長期政権を転換する「政権交代」の時、国民が主役の政治を実現する時です。3年前秋田で吹いた新風のすすき議員は、台風9号が吹き荒れる9月5日民主党・新緑風会に入会しました。今この時を肌で感じ、新たな展開を予感したのでしよう。新装なった国会、参議院は与野党逆転国会、衆議院解散総選挙が日に日に近づくのを実感する永田町です。東京事務所より

リーダーの資質をまたぞろ想い出してしまいました。安倍さんや小沢さんではありません。加藤紘一さんが一時の迷い、遅れで、本懐を遂げられなかった事を述懐した著書を読んだことからです。

下野した加藤さんは原点に立ち戻り、何かおかしき日本を振り返り、何かを確信しました。そのひとつに地域コミュニケーションの崩壊を上げています。そして、教育の格差が地域格差を相乗していると説いています。その結果、人に対しての「慮る心」「個を尊重しながら、団体として結束を重視する考え」が欠如している危険信号を出し、この背景は市場原理主義にあると分析しています。

自分の考えがあてはまり、妙にすんなり読み込んでいました。本のタイトルにある「リベラル」は「公」と規定、公の欠如が問題だとし、地域を復活させた少子化、高齢化対策を提案しています。首相候補といわれ加藤の乱で退いた著者は、決して今の自民党政権の考えではありません。感情任せで発信する輩にリーダーの資質はないと思うこの頃です。

(Y・K)